

諫高同窓会々報

長崎県立諫早高等学校
同窓会事務局
TEL 22-1222・FAX 22-5104
<http://www.news.ed.jp/isahaya-h/>
編集 馬場 秀樹
印刷 所 諫早印刷株式会社
TEL 22-1350

伝統を繋ぐ



同窓会々長 池田 光利
(高校二十回・昭和四十三年卒)

同窓会の皆様には、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。また、同窓会活動に深くご理解ご協力をいただき、厚く

感謝申し上げます。
駅伝女子の健闘
諫高陸上部駅伝女子は、昨年十一月二日の長崎県高校駅伝大会で優勝

同窓会の皆様への感謝を添えて



校長 荒木 典子

日頃から、池田光利会長をはじめ、同窓会並びに同窓生の皆様には物心両面から本校教育を支えていただき、心より感謝申し上げます。

平成二十三年度に諫早高校附属中学校が設置されてから七年。附属中学校一回生(高校六十九回生)が二十九年三月卒業しました。一回生として、

し、年末の京都での全国高等学校駅伝競走大会へ二十三年連続、二十四回目の出場を果たし伝統を引き継いでくれました。全国大会では、一区六位、二区から四区までの各区間を八位で繋ぎ、最終の五区は競技場内での三校による抜きつ抜かれつの十位争いに競り勝ち、三校同タイムで着差

の十位という成績でした。選手達が目標とした八年ぶりの八位以内の入賞はかないませんでした。が、私は入賞に値する感動を覚えました。
松元利弘前監督から監督のタスキを引き継いだ藤永佳子先生の監督一年目。目標に向かって監督、選手、サポーター等部員十一名一丸となつての、ためまぬ努力の成果だと思っています。

旗のもと、女子応援団長のリードで、大声援を送ることができました。同窓会の皆様には、毎年の募金活動をはじめ厚いご支援に感謝いたします。
数名の同窓生から諫高男子の長崎県大会の成績が地元新聞に掲載されていないことを尋ねられましたが、部員不足(長距離の男子部員2名)のため不参加でした。県大会への再出場の日を、期待して待ちたいと思います。

会員名簿の発行

諫高同窓会では、会則第十五条で会員名簿の発行が謳われており、これ

まで五年に一度名簿の作製を行ってきました。
前回は平成二十六年九月の発行で、今回は来年の九月頃を予定しています。平成二十七年三月卒から平成三十一年三月卒までの五年間の、全日制(六十七回卒～七十一回卒)と定時制(六十三回卒～六十七回卒)の会員が新たに収録されます。

御書院池の清掃

倉屋敷川から御書院の池への入水用コンクリー

ら、全会員に対し往復はがきが発送されます。
各年代同期の同窓会、各支部や諫早での年代を超えた同窓会の開催など縦横の世代間の交流を実施し、諫高同窓会の伝統を繋いでいくためには、より正確な会員名簿が不可欠です。会員の消息等の確認に對して、各卒業回の幹事(理事・評議員)、各支部の役員の皆様をはじめ、会員の皆様のご理解ご協力をよろしくお願いします。

ト管内の掃除により、入水が確保されて二年が経過しました。
以前より池の透明性は、池底を見透かせる冬期を除きまだまだの状態です。
同窓会として対応を検討した結果、事業者に依頼し、本年中に池の堆積土の除去を実施することにしました。成果がもたらされることを願っています。

今後とも同窓会活動を通して、会員相互の親睦とともに母校の発展のため、会員の皆様のお力添えをお願いします。

朝補習を廃止しました。これまでの四十五分七時間の日課を五十分七時間に変更したところです。少子高齢化、高度情報化、グローバル化等、社会構造が急速に変化する現代において、自ら課題を見つけて他と協働して問題解決を図っていく力が今大いに求められており、本校の校訓「自立創造」とおり、自分自身の力で人生を拓き、新しい価値観を創造していかねばなりません。誰かに指示され、設定されたマニュアル通りに行動しているだけでは、世の中の

急激な変化に到底対応できないと考えられます。生徒達には、わずかな時間であっても主体的な活動を期待しているところです。また、本校への入学生は、附属中学校を含め、諫早市に限定されず、周辺の大村市、雲仙市からも多くいるのが現状です。遠距離通学生も少なくありませんので、少しでも朝の時間帯に余裕ができればと思います。

同窓会に感謝

本年度は、六月の東京不知火会を皮切りに、諫早市での同窓会総会、福

岡圏支部総会、中京支部総会、関西支部総会、そして、長崎市支部総会と全国各地の同窓会に出席させていただきました。いずれの総会におきましても、同窓生の皆様の、母校に対する熱い思いに触れさせていただき、大変感激いたしました。また、当地での同窓会総会では現役のギター・マンドリン部及びコーラス部が演奏し、皆様から万雷の拍手をいただき、現役生の様子を見ていただきました。関西支部総会には、三月に卒業した初々しい女子学生二名が出席

し、先輩方が大変喜んでくださいました。今後、より若い世代の参加者が増えるよう、各地区で工夫されているようです。また、本年も、十二月の全国駅伝競走大会(京都市)への出場につきましては、多くの募金を寄せていただくばかりか、当日には、各地から競技場まで応援に駆けつけていただきました。本当にありがとうございました。皆りがとうございます。皆さんの声援のお陰で、八位入賞には一歩及ばなかったものの、昨年度の十八位より順位を上げ、第十位と健闘いたしましたし

た。松元監督の引退後、藤永新監督の初陣となる試合でしたが、立派に思いを繋いだ試合であったと生徒たちを誇らしく思います。
それぞれの花を咲かせるために
二十九年度の本校の努力目標は「一歩前へ・」

ネットまで行うなど、少しずつではありますが、自分たちの力を懸命に磨いています。生徒たちは「入れる大学」ではなく、第一志望を貫く気概を持って、将来を見据えながら学習に部活動に励んでおります。同窓会の皆様には、今後とも諫早高校及び附属中学校の生徒達の成長のために、側面からご支援ご鞭撻をいただければ幸いです。
諫早高校同窓会のますますのご発展を祈念し、ご挨拶いたします。

関東支部総会

第六十三回東京不知火会・諫早高校同窓会関東支部総会・懇親会は、六月十七日に盛大に開催されました。諫早からは同窓会池田会長や荒木校長、事務局、諫早市職員にそして、東京諫早会今泉会長にもご出席賜り総勢八十九名の会となりました。八十歳を超えいまだお元気な先輩方も三十代から七十代の世代も幅広く集まり、出身地や当時のクラブ活動にも花が咲き、終始にこやかな笑顔の絶えないひと時でした。郷土のお酒きのかわや黒おこし、そしてCDデビューしたデュオの歌声披露ありと盛りだくさんでした。次回、また来年の六月に開催を予定しておりますので、多数の方に参加いただき懇親を深めたいと思います。

関東支部事務局 香田 誠朗



関西支部総会

平成二十九年度の関西支部総会・講演会・懇親会を、平成二十九年十一月十九日(日)に尼崎市の「ホテル「ホッポイン」アミニング」で開催しました。出席者には総勢六十六名、本部から中村副会長、荒木校長、上迫副事務局長にご出席頂きました。会員では広島から二名、東京から一名、福岡から一名、学制別では旧中の一名、新しい会員では、本年卒の若い二名が出席頂きました。尚、今年は三年ぶりに、講演会を開催し、講師は故市川森一氏(学十二)の令夫人の柴田美保子様に「夫・市川森一が遺したものの」との演題で、彼のひととなり、作品、故郷の長崎・諫早に対する思い入れなど、初めて公表される話を含め、スクリーン上に映像も映しだされ、現在も語り部として活躍の講演に感銘を受けました。

懇親会では、歓談しながら「お楽しみプレゼント」、更に恒例の「皿踊り」、締めくくりは、旧高女、旧中学、諫高の校歌を高らかに斉唱し、楽しい一時を過ごしました。

尚、役員改選に伴い、真崎宏(学十七)新支部長が選任されました。

関西支部長 上原 充



中京支部総会

中京支部総会・懇親会を十一月十一日、名古屋市の名鉄グランドホテルにて開催いたしました。

今回も、荒木校長先生ならびに池田同窓会本部会長にご臨席を賜り、盛大に開催することができました。ご多聞にもれず当中京支部も高齢化が進み、参加者を勧誘するのに苦労しております。さりとて若い会員の方々は、子育て等で都合が付きにくいなど事情がありますので仕方がありません。

参加者は二十三名と少なかつたですが、初参加者もあり旧友との昔話で大いに盛り上がりました。少ないことで一人ひとりが近況報告やら健康づくりの体験談、高校時代の失敗談など時間をとってスピーチして頂き、なるほどと頷いたり、笑いの渦ありで大変和やかなひと時を過ごせました。また、来年会おうねと再会を約束し握手して別れました。

中京支部長 宮崎 京治



長崎支部総会

去年の長崎支部懇親会を年が明けて、今年一月の「新年会」として開催したので、今年は二回目?の支部懇親会を十一月二十九日に開催。続けての開催なので、参加者が少ないのではと心配したが今回も、ほぼ例年通りの約五十名が参加。このところ毎回参加して頂いている、田中前副知事、池松県教育長のほか、久しぶりに橋村県議も出席して頂いた。

池田同窓会会長、荒木校長から、同窓会、母校の近況、各分野での活躍、評価を伺ったが、頼もしく誇らしい限り。今回は、特に長崎市役所に勤務する若い諫高出身者が沢山参加。その中には、都大路の女子駅伝の優勝メンバーや、箱根駅伝で活躍した人もいて、大いに盛り上がった。長崎支部は、諫高出身者で、長崎で仕事をしている人たちの「異業種交流の場」でもあると思っているので、今後も若い人にも参加を呼びかけ、同窓会が、参加者にとって、様々な意味で、より意義あるものになるよう、努めていきたい。

長崎支部長 河野 英雄



福岡圏支部総会

福岡圏支部の第二回同窓会総会が、平成二十九年七月二十二日福岡市で開催されました。

参加者は、池田同窓会長、荒木校長等の御来賓を得て、二回生から四十三回生まで総勢百九名で、和やかに懇親を深めました。

当日の催しは三十二回生のプロ奏者高橋和彦さんによるマンドリンの演奏で、超絶技巧曲「チャルダッシュ」の演奏を堪能しました。

参加者にも総会は好評で、山登り、ゴルフ等の同好会も発足させることになりました。

平成三十年総会は七月二十八日(土)です。

福岡圏支部長 前田 豊



2017（第69回卒業生）入試結果

国立大学				公立大学				私立大学			
大 学	現	浪	計	大 学	現	浪	計	大 学	現	浪	計
筑波大	1		1	高崎経済大	1		1	自治医科大		1	1
千葉大	1		1	前橋工科大	1		1	学習院大		1	1
電気通信大	2		2	首都大東京	2		2	慶應義塾大	1		1
東京大	1		1	都留文科大	3		3	芝浦工業大	1		1
東京学芸大	1		1	名古屋市立大	1		1	上智大	1	2	3
金沢大	1		1	京都府立大	1		1	中央大	1	2	3
信州大	1		1	大阪市立大	1		1	津田塾大	2	2	4
静岡大	2	2	4	大阪府立大	1		1	東京理科大		2	2
滋賀大	1		1	山口東京理科大	1		1	日本大	1		1
京都大	5	1	6	尾道市立大	1		1	法政大	2	1	3
大阪大	3	1	4	福山市立大	1		1	明治大	5		5
神戸大	3		3	下関市立大	4		4	立教大		2	2
島根大	1	1	2	高知工科大	1		1	早稲田大	1	2	3
岡山大	2		2	北九州市立大	3		3	関西学院大	3		3
広島大	9		9	福岡女子大	1		1	近畿大	2	1	3
山口大	7		7	長崎県立大	17		17	同志社大	1	3	4
徳島大	1		1	熊本県立大	3		3	立命館大	4	3	7
香川大	2		2	大分県立看護科学大	1		1	西南学院大	11	4	15
愛媛大	2		2	宮崎県立看護大	1		1	福岡大	31	2	33
高知大	3		3	公立大学合計	45	0	45	活水女子大	10		10
九州工業大	4		4					長崎純心大	9		9
九州大	21	2	23					長崎外国語大	2		2
福岡教育大	5		5					長崎総合科学大	2		2
佐賀大	7		7					長崎国際大	5	1	6
長崎大	28	1	29					立命館アジア大	1		1
熊本大	19	3	22					その他	65	6	71
大分大	7	1	8					私立大学合計	161	35	196
宮崎大	1		1								
鹿児島大	3		3								
琉球大	5		5								
国立大学 合計	149	12	161								

準大学				医療系専門学校				就職			
大 学 校	現	浪	計	大 学	現	浪	計	大 学	現	浪	計
防衛大学校	2		2	嬉野医療附看護			4	諫早市役所			2
職業能開大学校	1		1	長崎医師会看護			6	合 計			2
準大学合計	3		3	別府医療附看護			2				
				その他			13				
				医療系専門学校計			25				

文化部			
部・同好会名	部員数	活動状況及び主な成績	
写 真	32	長崎県高等学校総合文化祭県写真展最優秀賞1名、優秀賞3名、優良賞1名	
茶 道	16	長崎市民茶会、知足会（表千家研修会）への参加、緑陰茶会・文化祭・合同文化祭においてお手前披露など	
美術・イラスト	18	長崎県高総文祭 絵画部門・工芸部門優良賞、文化祭・合同文化祭などでの展示	
吹 奏 楽	36	長崎県吹奏楽コンクール銀賞、長崎県アンサンブルコンテスト管打7重奏銀賞	
科 学	11	長崎県高等学校総文祭科学研究発表会総合司会、文化祭・合同文化祭での発表など	
パ ソ コ ン	11	県高総体のHP作成、体育大会集計作業、文化祭・合同文化祭での自作ソフトの展示など	
新 聞	2	文化祭などでの展示	
英 語	9	文化祭・合同文化祭での展示、スピーチコンテストへの応募など	
ギター・マンドリン	50	文化祭、合同文化祭での発表など	
文 学	4	全国高等学校総合文化祭散文部門参加、文化祭・合同文化祭での展示	
演 劇	5	自主公演、文化祭・合同文化祭での発表	
放 送	18	NHK全国放送コンテスト長崎県大会アナウンス部門優良賞、九州高校放送コンテスト長崎県大会アナウンス部門優秀賞・優良賞、朗読部門優秀賞、九州高校放送コンテスト九州大会アナウンス部門・朗読部門優良賞	
コ ー ラ ス	11	九州合唱コンクール県予選金賞、九州合唱コンクール銅賞	
図 書	14	ライブラリーフェスティバル県央地区大会 広報紙コンクール優秀賞	
書 道	16	長崎県高等学校文化連盟書道部門揮毫大会優秀賞2名、九州高等学校文化祭揮毫大会奨励賞、長崎県高等学校総合文化祭書道展特別賞・新人賞2名	

部 活 動

1. 部活動の入部状況				
在籍者に対する学年別入部率（％）				平成29年5月
	1 年	2 年	3 年	全学年
在 籍 数	283	278	271	822
体 育 部	192 （68％）	186 （67％）	183 （68％）	561 （68％）
文 化 部	97 （34％）	79 （28％）	73 （27％）	249 （30％）
計	289 （102％）	265 （95％）	256 （94％）	810 （99％）

2. 部員数及び活動状況（平成29年度）				
体育部				
部・同好会名	部員数	活動状況及び主な成績		
陸 上	63	(団) 全国高校駅伝女子10位、県新人駅伝女子準優勝、高総体（団体総合）女子6位、男子10位 (個男) 高総体4×100mR1位、棒高跳3位、走幅跳4位、400m8位 新人戦団体4位、個人4×100mR1位、走幅跳1位、200m2位、棒高跳2位、100m5位・7位、400m5位ほか (個女) 高総体100m1位、4×400mR3位、800m5位、1500m5位・9位・10位、3000m2位・4位・8位 新人戦団体6位、個人3000m2位・7位、4×400mR3位、走幅跳3位、三段跳4位・8位、4×100mR4位、100m5位・7位、200m5位、1500m6位、800m7位、400mH7位		
野 球	44	NHK杯高校野球中地区予選3位、NHK杯高校野球県大会ベスト8、全国高校野球選手権長崎大会3回戦敗退、九州地区高校野球選手権長崎大会3回戦敗退		
ソフトテニス男	9	高総体団体2回戦敗退、個人4回戦敗退、県新人戦団体1回戦敗退		
ソフトテニス女	12	高総体団体2回戦敗退、個人5回戦敗退、県新人戦団体2回戦敗退、個人ベスト32		
テニス男子	19	高総体団体1回戦敗退、シングルス5回戦敗退、ダブルス3回戦敗退、県新人戦団体1回戦敗退		
テニス女子	25	高総体団体2回戦敗退、シングルスベスト16、ダブルスベスト16、県新人戦団体3位、シングルスベスト32、ダブルスベスト8・16、全国選抜大会県予選団体3位、学年別大会2年ダブルス準優勝・ベスト8、2年シングルス5位、県冬季戦シングルス優勝、ダブルス3位・ベスト8、中地区新人戦ダブルス準優勝・ベスト8		
バレー男子	24	高総体ベスト8、県新人戦ベスト8		
バレー女子	23	高総体2回戦敗退、県新人戦1回戦敗退		
バスケット男	29	高総体3回戦敗退、県新人戦ベスト8		
バスケット女	31	高総体2回戦敗退、県新人戦ベスト16		
卓 球 男 子	21	高総体団体1回戦敗退、シングルス3回戦敗退、ダブルス1回戦敗退、県新人戦団体2回戦敗退		
卓 球 女 子	13	高総体団体1回戦敗退、シングルス、ダブルス3回戦敗退、県新人戦団体ベスト16、シングルス32		
剣 道 男 子	14	高総体団体1次リーグ敗退、個人3回戦敗退、県新人戦団体予選リーグ敗退、個人2回戦敗退		
剣 道 女 子	5	高総体団体1次リーグ敗退、個人3回戦敗退、県新人戦団体予選リーグ敗退、個人2回戦敗退		
柔 道	5	高総体団体予選リーグ敗退、個人3回戦敗退、県新人戦個人2回戦敗退		
弓 道 男 子	29	高総体団体1次予選敗退、県新人戦予選敗退		
弓 道 女 子	29	高総体団体2次予選敗退、県新人戦予選敗退		
バドミントン男	21	高総体団体2回戦敗退、シングルス3回戦敗退、ダブルス2回戦敗退、県新人戦団体2回戦敗退、シングルス2回戦敗退、ダブルス1回戦敗退		
バドミントン女	20	高総体団体2回戦敗退、個人シングルス、ダブルス3回戦敗退、地区新人戦団体2回戦敗退		
ラ グ ビ ー	18	高総体2回戦敗退、全国高等学校ラグビーフットボール大会県大会1回戦敗退、県新人戦予選リーグ敗退、全国U18合同チーム東西対抗戦出場（大倉一響）		
フェンシング	16	高総体男子団体1回戦敗退、男子エペ1位・3位・5位、男子サーブル2位・4位・5位、女子エペ7位、県新人戦男子団体エペ1位、男子フルーレ2回戦敗退、女子フルーレ2回戦敗退		
サ ッ カ ー	47	高総体3回戦敗退、全国高校サッカー選手権大会長崎県大会中地区予選予選敗退、県新人戦地区予選敗退		
ソフトボール	16	高総体1回戦敗退、県新人戦1回戦敗退		
水泳同好会	12	高総体個人（男子1500m自6位・8位など、女子200mバタ3位、200mメドレー4位など）、県新人戦個人（男子50mバタ4位、400m自5位、100mバタ6位、女子50m自3位、50mバタ4位、50m背5位、100m背6位など）		
応 援	16	各大会や学校行事等における応援活動		



一月二日、成人の節目に諫早高校六十八回生の同窓会を開催いたしました。来賓として十三名の先生方をお迎えし、二百二十一名の卒業生が集まりました。多くの方のご列席に心より感謝申し上げます。会は幹事作成のスライドショーから始まり、その中の懐かしいシーンに、それぞれが高校時代を思い出し、時折笑い声が上がっていました。また、思い出話に花を咲かせ、歓談の合間には野球部とサッカー部によるダンスパフォーマンスがあり、途中から先生お二方にも加わっていただきました。会場の熱気のある会となりました。卒業以来の再会でしたが、皆が相変わらず元気、忙しいながらも充

六十八回生同窓会を終えて

実した日々を送っているようにでした。それぞれの道に進んだ今でも、『Green Soul』のように、夢に向かって努力を続ける六十八回生の姿に刺激を受け、より一層自分を高めようと決意する機会ともなりました。今後も高校時代に誓った志を忘れずに前に進み続けたいと思います。

小川 紗智

お礼ー平成二十九年全国高等学校 駅伝競走大会出場に際して

都大路を終えて

陸上部女子主将
森 林 未 来

昨年、十二月二十四日に京都で行われた全国高校駅伝大会ではたくさんの方々から熱いご声援、ご支援を頂き本当にありがとうございました。

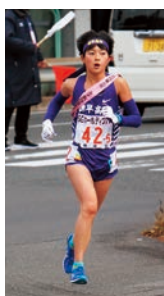
レースでは一区森林が六位でたすきを渡し、二区、三区は一年生ルーキー弟子丸、大原が一区の流れを引き継ぎ八位で二年生の四区平岡にたすきを繋ぎました。平岡は去年の悔しさもあり、都大路での借りは都大路で返すという思いで粘り八位で三年生の岡本へたすきリレーしました。三年



生最後の都大路となる岡本にとつては、どうしても八位入賞を果たしたいという思いでいっぱいでした。岡本は足の怪我で痛みを抱えながらも全力で駆け抜け、最後は意地の走りでもゴールしました。目標であった八位入賞には一步届きませんでした。最後まであきらめない自分たちらしい走りをする事ができました。



今回忘れてはならないのは、男子二名の存在です。日々の練習で男子がレースペースを作ってくれたり、きつい時に声をかけてくれなかったら私たちはこの舞台で力を発揮することはできませんでした。たくさんの方に



同窓会総会・懇親会の報告

平成二十九年七月一日(土)、諫早観光ホテル道具屋において、平成二十九年の同窓会総会ならびに懇親会が開催されました。

総会では、まず池田光利会長のあいさつと荒木典子校長による学校の現況報告が行われました。議事では、前年度の事業と決算報告、本年度の事業計画と予算の審議が行われ、議案はすべて承認されました。

引き続き、例年は講演が行われていましたが、会員の方々から、現在、頑張っている生の諫高生の姿を見たいという声があり、今年度はギター・マンドリン部の演奏とコーラス部の合唱が披露されました。活気あふれる現役諫高生の素晴らしいステージとなり、アンコールの声が止まない程

大楠、こんなに大きいとは……。何年生の頃か忘れたが、午後の陽気につつまれ、窓から見える頂上付近のつっじの美しさにうっとりしていた日々を思い出す。残念ながら今は周りの木々が大きくなって、その景色は見られないようだ。上山公園といえは「愛宕の階段」。部活動で、お尻と足が重たくて、みんなの後をオッチラオッチラと登ったのを思い出す。先日数えたら二百六十七段あった。

の盛り上がりの中、総会を終了することができました。今年の懇親会では、諫高野球部が甲子園出場を果たした際の報道をまとめたスライドショーが流され、往時の感動が時を越えて蘇りました。懐かしい高校時代を振り返りながら、友と語らう、楽しいひとときを過ごされたのではないかと思います。



編集後記

今回の会報におきまして、本校の現況や各回・支部のさまざまな活動を掲載させていただきました。原稿執筆や情報提供をいただきました皆様方、本当にありがとうございました。また、本年度も様々な学校行事の開催にあたり、同窓会生の方々をはじめ、地域の方々など非常に多くの方にお力添えをいただきました。この場をお借りして御礼申し上げます。

シリーズ「おしどりの池」⑮ 風につつまれて

荒 木 晴 子 (二十九回生)

諫早高校定時制に勤務して三年目になる。勤務前、諫早公園、城山公園、御書院周辺を散歩することがある(ランニングと

いたいところですが)。改めて、諫早高校は緑に囲まれていることに気づかされる。「青葉の街に母校あり……」と、当時おられた長沼先生の額の

あたりから響いてくる歌声が聞こえてくるようだ。

御書院は、記憶では、もっとこもり低木が茂っていた。「心字池」と名前があることは全く知らなかった。鴨・鯉・亀・すっぽん・ナマズなど沢山の生き物の住処になっている。諫早公園頂上の

自分は何回生かも答えられない私だった。私が卒業して四十年の月日が流れても、ここに当たり前に「母校」がある。この風景が、ここを巣立つた全日・定時制の卒業生の記憶の中で繋がっていることを思うと、感慨深い。故郷を離れた仲間にとっては、更に特別な思いがあるに違いない。

今年度の四月より諫早高等学校附属中学校に赴任した。中学校教員としての採用だったので、まさか高校の母校で勤務をするとは思っていませんでした。毎日黙々と練習に打ち込んでいる生徒を見るのが、私の楽しみでもある。日々成長を続ける生徒を見ると自分自身も成長をしないといけないと感じる。私が

生徒の姿から

鳥 巢 晋 (四十九回生)

上競技部の指導にあたっている。諫早高校陸上部といえば「駅伝」というくらい長距離は有名だが、私が担当しているのは短距離、フィールドブロック。毎日黙々と練習に打ち込んでいる生徒を見るのが、私の楽しみでもある。日々成長を続ける生徒を見ると自分自身も成長をしないといけないと感じる。私が

大事にしている言葉「自分を成長させる責任」。頑張る生徒の姿から、この言葉がさらに自分自身に響いてくる。自分を成長させる責任から逃げることなく、これからの教員生活も成長できるように努力していきたい。



ければ幸いです。